

# 紋枯病

- 主に水面近くの葉鞘部から発生し、順次上部の葉鞘へ進展する。
- 病斑については、最初暗緑色の病斑が発生し、後に周縁が褐色で縁取られ中央部は灰白色となる。
- 高温が続くと、出穂期以降急激に株全体で発病することが多い。
- 感染経路は土壌由来で越冬菌核によるものが主であり、田植え後根から吸収されて感染する。



菌核が土壌中で長期間生存する。



菌核が田面水を浮遊し感染する。



病原菌は茎を伝って上部へ進展する。

# 紋枯病の対策について

- 箱施用剤の使用と併せて基幹防除を徹底する。特に**出穂期防除**については、**早めの散布（出穂前）**を心がける。
- **高温・多湿**の条件下で発生しやすい。
- 多発圃場については、**土壌に大量の菌核が残っている可能性が高い**ため、**作付け圃場の変更**を行う。
- 多発した場合には、以下の薬剤で応急防除を行う。

薬剤名	倍率	散布量	使用時期	備考
バリダシン粉剤DL	—	3～4 kg	収穫14日前まで	
バリダシン液剤5	1,000倍	60～150 ℓ	収穫14日前まで	